

いかにして学生の理解が深まり、 学習効果が高まるのか

学生の主体的な学びを促進し、学習効果を高めるためには、授業内容の理解の定着と深化が求められます。学内でも様々な授業改善の工夫がなされていますが、その中から今回は薬学と食物栄養学分野における実践事例を紹介します。

このテーマは、授業改善を行う上で、最も大きな全学共通の課題ではないでしょうか。その考え方や手法について、学科や専門分野の領域を超えて情報を共有してみませんか？皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

平成30年

3月1日 **木** 15:00-16:40

中央キャンパス 文学2号館5階 L2-51教室

参加希望の方は2月23日(金)までに教育開発支援室へご連絡ください。

※教職員はどなたでも参加可能です

《司会進行：FD推進委員長 三宅 弘晃》

15:00 はじめに

事例紹介①

15:05-15:30

学生の主体的な学びを促し、理解を深めるための
現状と課題

発表：森山 賢治先生 (薬学部健康生命薬科学科)



【概要】『昨年7月～9月に3回に亘って参加された全国大学実務教育協会主催「能動的学修の教員研修リーダー講座」の研修報告と、自身の担当される科目における課題について』報告いただきます。

事例紹介②

15:40-16:05

学習意欲の向上を目指した予習動画の導入と
リメディアル教育の活用

発表：有井 康博先生 (生活環境学部食物栄養学科)



【概要】大食1年「基礎化学」の講義において実践されている、講義内容の予習動画の作成と配信の取組みの紹介とその効果、教務課と連携しリメディアル教育を講義内容と結びつけ、学生の学習意欲の向上を目指した取り組みを紹介いただきます。

16:10-16:35 実践事例に関する質問、自身の授業運営に関する相談等 情報交換

16:35 終わりに

申込み・問い合わせ先：教育開発支援室

TEL：0798-56-9070 (内線6410・6411・6412) / e-mail：seds@mukogawa-u.ac.jp